

# 東日本大震災から8年 宮城県石巻市・称法寺

## 本堂修復し初の法話会

東日本大震災から8年を結成して4月17日に津波で壊滅的な被害を受けた宮城県石巻市。市称法寺は昨年、この本堂の修復を終え、この

現在、同寺の法務は任職代務・松山善之さん(66)、福島県相馬市

光善寺住職の長男である松山善洋さん(36)を中心として行

午後1時、善洋さんの調声で重畳偏をおつとめ。続いて集まった同寺門徒に挨拶した。

震災前は『常例布教』と、毎月17日に法話を聞く会があったと聞いている。しかし、あの大震災により、寺院活動も混乱の中で先が見えない状況となった。門徒さん同士の横のつながりを取り戻し、

私を呼んでくださって会』が発足した。称法寺の称、親鸞聖人の親で命名した。皆さんで親鸞聖人のみ教を聞かせていただいた」と呼びかけた。

布教使の鎌田宗雲さんが法話。京都女子学園の創始者・甲斐和里さんが詠んだ和歌

「みほとけの御名を称するわが声はわがこゝろを尊かりけり」

を紹介し、「和里さん亡くした。現在、仙台市に任じているが、お墓がある称法寺さんには毎月手を合わせています。法話会の案内をいただき、本堂で初めてお話を聞いた。また法話会に参拝したい」と話していた。

善洋さんは「ご門徒が集ってくださるか不安だったが、多くの方が参拝して下さり、『また来たい』という声を聞き、喜んでい

をどう復興していくか、まだまだわからないことに感じる。年月が経過し復興が進められる中で、修繕された本堂に集ってくださる機会が充実していくように努めていきたい」と話



「お念仏を称えさせてい

と思うほど、いい時間だった。本堂でお話を聞く時間は充実している。来ることができなかつた人にも参拝を呼びかけた」と喜ぶ。有給休暇をとって参拝した門徒の立石浩一さん(70)は「津波で祖母、義母、妹、おいを亡くした。現在、仙台市に任じているが、お墓がある称法寺さんには毎月手を合わせています。法話会の案内をいただき、本堂で初めてお話を聞いた。また法話会に参拝したい」と話していた。



善洋さんは「ご門徒の中には、自らが津波被害を受け、その土地が復興祈念公園や防潮堤となつてしまい、石巻を離れて仙台などに移る住む方も多いように感じる。年月が経過し復興が進められる中で、修繕された本堂に集ってくださる機会が充実していくように努めていきたい」と話

東日本大震災から8